

山口県周南市の空き家再生プロジェクト

西尾 幸一郎

徳山工業高等専門学校 土木建築工学科 (〒745-8585 山口県周南市学園台)
E-mail:nisio@tokuyama.ac.jp

1. はじめに

総務省の「住宅・土地統計調査」(2013年)¹⁾によれば、国内の総住宅数 6,063 万戸のうち、空き家数は 820 万戸と 2008 年調査から 63 万戸も増加し、空き家率は過去最高の 13.5% を記録した。そして、長年放置された家屋の老朽化による倒壊や放火、ゴミの不法投棄などが全国で大きな社会問題となっており、使い途のない空き家は、住民や所有者にとって厄介な「負の遺産」に成り果てている。

そのような中で、空き家を高専生や大学生が自由に活動できる「地域の教育資源」としてポジティブに評価し、創造と実践のチャンスを与える試みが全国的に広がっている。学生が空き家の再生設計から施工までを一貫しておこなうプロジェクトとしては、大阪市立大学の長屋再生プロジェクト²⁾や九州大学の糸島空き家プロジェクト³⁾、米子高専の学生シェアハウスづくり⁴⁾、関西大学のまちの居場所づくり⁵⁾などの先駆的な取り組みがある。

建築を学ぶ学生にとって、地域の人たちやプロの技術者と意見を交わし合い、金銭面や材料面などの様々な制約も考慮しながら建物をデザインし、それをみんなで協力し合いながら建てるという経験をすることは非常に重要である。他方、高専等での建築教育では、学内でのデスクワークが中心であり、学外に飛び出してフィールドワークをする機会は少ない。そこで、前述のような取り組みは、高等教育機関における地域貢献活動としてだけでなく、従来の建築教育に欠けていた部分を補填するものとしても広く注目を集めている。

そのような中で、筆者の研究室では、2012 年から山口県周南市の中山間地域(図-2)において、高専生や高専 OB・OG、大学生、小学生、地域住民と共に知恵を出し合い、汗を流し、楽しみながら“Do It



図-1 活動の様子



図-2 すり鉢状に広がる棚田の風景



図-3 活動対象地域

Yourself (自身で作ろう)”で空き家となった築 100 年の古民家を改修し、地域内外の人たちの憩いの場

として再生する活動をおこなっている。本稿では、これまでの活動の内容と成果について報告する。

2. 活動の概要

(1) 活動に至った理由や背景

本事業の活動対象地域である中須北は、山口県周南市の中心から 20km 北東に位置する標高 300m の中山間盆地にある(図-3)。四季折々の自然美あふれる棚田や地域に根づいた暮らしの風景(図-2)は、日本の原風景とも言われており、2010年には山口県の棚田 20 選にも選定された⁶⁾。

近年は、過疎・高齢化が急速に進行しており、20年間で人口は 369 人から 219 人と約 40%も減少し、人口比で 50%以上が 65 歳以上の高齢者となった。また、世帯数も 143 世帯から 106 世帯に減少し、耕作放棄地や空き家が目立ってきている(図-4)。

他方、共同体の機能は維持されており、棚田の保全活動も盛んである。とりわけ 2001 年に結成された全戸加入のむらづくり組織「棚田清流の会」⁷⁾では、農業体験交流会や棚田オーナー制度、棚田フォトコンテストなどを積極的に実施している。その結果、親子連れやカメラマンなどの地区外からの訪問者も年々増加している。ただし、高校生・大学生などの若年層の誘致や空き家対策は今後の課題として残されたままであった。

以上のような背景から、2012 年に棚田清流の会から筆者に対して「高専生と一緒に空き家の活用を検討してもらえないか」という依頼があった。筆者は当時、学外での実践教育の場を探しており、また、自分自身も一人の建築技術者として「実際の住まいづくりをみんなで楽しむ機会が欲しい」と考えていたことから、互いのニーズが合致し、本プロジェクトを開始するに至った次第である。

(2) 対象空き家の概要

対象空き家は、地域の玄関口に位置する築 100 年の古民家である(図-5, 6)。かつては 1 階で酒屋、2 階で書道教室が営まれており、地域住民の交流の場として大いに賑わっていたが、約 20 年前から誰も住まない空き家となり、地域衰退のシンボリックな建物となってしまっている。なお、対象空き家は、前述の棚田清流の会を通じて所有者と交渉し、無償での家屋の提供及び改修実施の同意を得た。

(3) メンバー構成と専門家による支援の状況

メンバーは有志で集まった徳山高専生 27 名、大学生 4 名、高専 OB・OG 7 名、高専教職員 2 名、市職員 3 名、小学生と保護者 3 名の計 46 名(女 25、男

21) である。活動は、休日を利用して月 1、2 回程度おこなっており、毎回 10 名ほどが参加している。

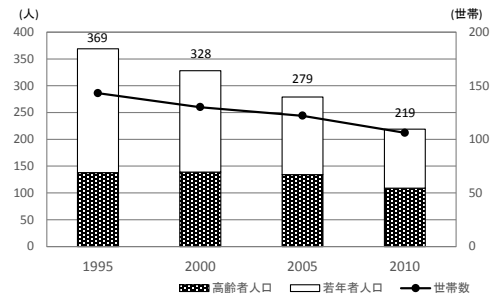


図-4 中須北地区の人口と世帯数の推移⁸⁾



図-5 対象空き家の改修前外観

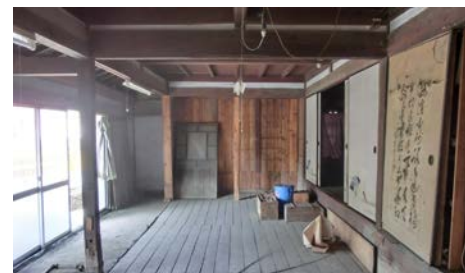


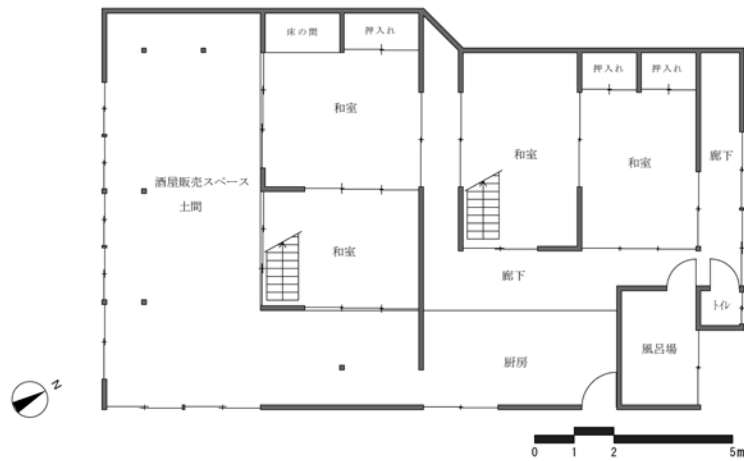
図-6 対象空き家の改修前内観

なお、近隣住民(高齢者)の中には、元大工や電気工事士などの様々な分野のエキスパートがおられ、必要な時にお問い合わせいただいても技術的な指導や各種工具の貸出などのサポートを受けられる状況にある。また、高専特有の貴重な人的資源である実習工場の技術職員などにも技術相談に応じてもらっている。

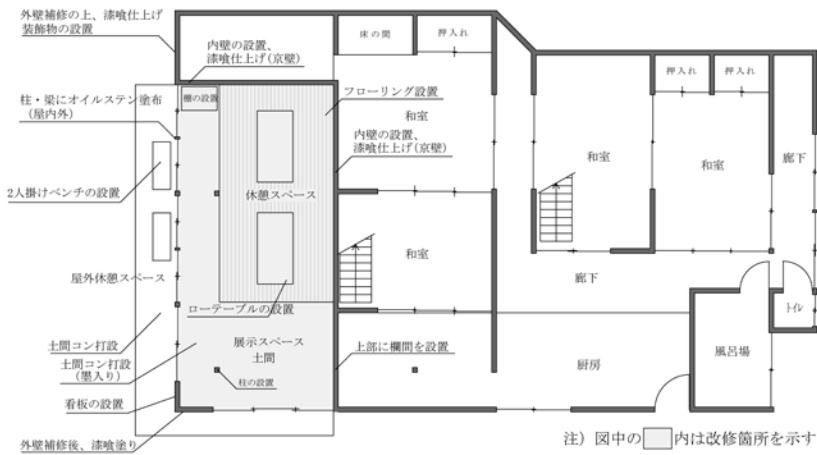
(4) 財源等について

活動の財源は、現在のところ行政や助成団体からの助成金に 100%依存している。2012 年から 2014 年度は山口県の「企業・大学等中山間地域づくり支援事業」、2013 年度は大同生命厚生事業団から「サラリーマン(ウーマン)ボランティア活動助成」による支援を受けた。また、毎年、高専祭が終わった後の廃棄物の中から比較的状態の良い木材等を大量に

譲り受けてリサイクル活用していることが、活動経費の削減に役立っている。



棚田情報交流館 1階平面図 (改修前)



棚田情報交流館 1階平面図 (改修後)



住民との意見交換会



現地調査



空き家改修計画の発表会



改修後の外観イメージ



改修後の内観イメージ

図-7 棚田情報交流サロンのDIY改修計画の内容とその策定過程の様子



(a) 屋内外の清掃



(b) 梁や柱の塗装



(c) 土間コン打設



(d) 内壁工事



(e) 外壁の漆喰工事



(f) フローリング工事



(g) 家具の製作



(h) 座布団の藍染め

図-8 DIY改修の様子

表-1 DIY 改修工事の工程

		2013年度												2014年度																								
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月													
共通	準備作業	現場打合せ		現場打合せ		清掃作業		高圧洗浄		屋根塗装		外壁塗装																										
外部	塗装工事													土間コンクリート打設		土間コンクリート打設																						
	左官工事													土間コンクリート打設		土間コンクリート打設																						
	木工事													土間コンクリート打設		土間コンクリート打設		外壁工事		外壁工事																		
	雑工事													土間コンクリート打設		土間コンクリート打設		壁面装飾		飛板・のれん製作		ベンチ製作		ベンチ製作														
内部	塗装工事													内壁塗装		内壁塗装		内壁塗装																				
	左官工事													土間コンクリート打設		土間コンクリート打設		漆喰塗り																				
	木工事													床板製作		内装工事		内装工事		フローリング工事		フローリング工事																
	建具工事													サッシ塗装		雨戸補修		建具補修		建具補修		建具補修																
	耐震補強工事													ステンレスガラス製作		柱の補設		金具による補強																				
	雑工事													ステンレスガラス製作		ステンレスガラス製作		欄製作		欄の製作		照明・植木鉢等の製作		ちゃぶ台製作		ちゃぶ台製作												

※表中の□の箇所は徳山高専のテスト週間を示す。

3. 活動の内容とその特徴

(1) これまでの活動の流れと空き家の再生案

本活動は 2012 年からおこなっており現在も継続中である。2012 年度は、高専生十数名で地域住民との意見交換会、地域の歴史や生活に関する勉強会、空き家の実測調査などを実施し、地域住民と共に空き家の再生案の検討を重ねてきた。

その結果、築 100 年の古民家を地域内外の人たちが集えるサロンとして再生することになった(図-7)。地域には農業体験交流会の参加者や棚田を撮影に来たカメラマンが集える場が少なく、野外でしかお茶をしながらおしゃべりすることはできない。そこで、サロンには小さな子ども連れの家族がゆっくりと過ごせる休憩スペースをはじめ、フォトコンテストの入賞作品や展示するスペースを設けることで、四季折々の自然やそこの暮らしの魅力を知るきっかけにもなるような場としたいと考えた。なお、今回の再生案では改修の費用が限られていることや、一般開放後の管理のしやすさなどを考慮して、建物の一部のみを使用することとした。

そして、2013 年度からは再生案の実現に向けて、左官工事（外壁漆喰仕上げ、京壁仕上げ、土間コンの打設）や木工事（フローリング張り、内壁工事、飾り木貼り）、建具工事（建具の補修、ガラスの張り替え）、雑工事（アンティーク家具の再生、ちゃぶ台・ベンチ・棚の製作）などの各種工事を全て学生主体でおこなっている。作業に当たっては、必要に応じて地域の元大工や電気工事士の方に安全管理も含めて専門的な技術指導を受けている。また、中山間の地域振興に携わっている市職員の方には毎回参加し

ていただいている。そして、学生と共に汗を流して作業をし、何気ないおしゃべりをする中で、専門職が果たす社会的役割や地域の暮らしが抱える問題などについても話していただくことができた。

(2) 高専生ならではの DIY

工事内容を検討する上で重視していることの一つに、高専生が学んできた高度な知識や技術、高専のハイテク機械を活用することがある。それは、学生が地域の専門家から一方的に教わるだけでなく、学生と地域住民との間に教え合い学びあう協働的な学びの関係を築きたい、そして、高専生の能力や可能性をアピールしたいと考えたからである。

そこで、本校の技術職員等のサポートも得ながら、学生が JW-CAD や Illustrator でデザインをし、そのデータを元にレーザー加工機でベニヤ板やステンレス板を加工し(図-9)、看板(図-10)や欄間を作成するという作業もおこなっている。

(3) 工程管理の特徴

工程管理で最も重視しているのは、効率的で経済的なものづくりをおこなうことではなく、活動メンバーの興味や関心、技術的なスキル、作業の楽しさ、当日の参加人数などに合わせて、作業内容や進捗スピードを柔軟に変えていくことである。また、メンバーが仕上がりに満足できなかったり、工事完了後に新しいアイデアが浮かんだりした場合には、何度でも作業をやり直している。そのため、本活動における DIY 改修工事の工程表は表-1 に示したように、実際の建築現場で使われているものと比べて、かなり複雑で非効率的なものとなっている。

(4) 学生と地域住民との関係

DIY 工事に関わる作業以外で学生と地域住民がふれ合う機会も多い。旬の味覚を使ったバーベキューや尻相撲大会、地場産材を使った特産品の試食会、農作業や薪割りの手伝いなどの様々なイベントもおこなっている。その他にも、寒い日には火鉢を持ってきたり、たき火をしてくださる高齢者、収穫した野菜や料理を差し入れてくださる農家の方、家の前でバスを止めて声をかけてくださる運転手などのように、地域の様々な方々が学生たちの活動をあたたかく見守り、応援して下さっている。その結果、学生は地域住民との間には、お互いが気軽に話しかけたり、近くの家に包丁や調味料を借りに行けるような親密な関係が形成されている。



図-9 レーザー加工機を使用している様子



図-10 棚田情報交流サロンの看板

4. 活動の成果と今後の課題

以上のような3年間に及ぶ活動の結果、筆者は以下のような成果が得られたと考えている。まず、建築を学ぶ学生に対する教育的な成果としては、改修工事における専門技術のみならず、職業が果たす社会的役割や安全管理などの職業倫理に関する知識、地域の暮らしを取り巻く問題や生活の知恵などの一般教養までも幅広く学べる複合的な学習機会を提供できたことである。

江口ら⁹⁾は空き家改修プロジェクトにおいて上記のような学習機会を提供する上で、学生に親密な関係で学習を補助する解説をおこなう学習支援者の存在の重要性を指摘している。本活動においても、元大工や電気工事士、建築士、市職員、農業従事者、主婦など、学生に対してまるで我が子や孫のように親しみを持って接して下さる多くの学習支援者の存在があった。

このような背景には、本活動を開始する前段階として、徳山高専が創立40周年に及ぶ歴史の中で地域社会に対して果たしてきた役割が大いに関係していると考えられる。全国の高専の中で本校は比較的歴史も浅く小規模校ではあるが、山口県周南市においては、どの地区でもその住民の中に本校出身者やその血縁者が数人はいるような状況にある。実際に前述の学習支援者の多くが本校の関係者であったことから、地域住民にとっての高専という存在の身近さがあったからこそ、学生等に対して複合的な学習機会を提供することができていると考えられる。

また、今後、本活動をさらに発展させていく上で土台がハード・ソフトの両面で整備できた。ハード面では、電動丸のこやインパクトドライバー、作

業用ヘルメット、大工道具、脚立などの必要な工具を揃えることができた。ソフト面では、建築関係者に限らず様々な分野の専門家とのネットワークが構築でき、レーザー加工機や3Dプリンターなどの大型機械を用いることで手作業では不可能な高度なDIYをおこなうことも可能となった。また、学生一人ひとりのDIY技術も飛躍的に向上しており、経験者が初心者者を指導できるだけの体制も整ってきている。

そして、これまでの活動実績が評価されたことで、将来的に他の空き家で同様の活動を実施することも可能になりつつある。空き家改修プロジェクトを実施する上で最大の課題は、所有者の個人資産である住宅を無料または安価で提供してもらうことである。本活動はテレビや新聞などのマスメディアで度々紹介されており、また、口コミ等で様々な地域の住民にも広がりつつある。その結果、別の空き家の再生や廃校小学校の跡地活用などの相談が、筆者に対して地域住民の方から寄せられるようになった。

最後に、本事業にとっての今後の課題としては、何より今後も活動を継続し、サロンの一般開放後のフォローアップも含めて関わりを持ち続けることであると考えられる。本事業は正課教育の一環ではなく、ボランティア活動であることから、活動内容に趣向を凝らし、次々と新しい魅力を提供していかなければ、参加者を引きつけ続けることは難しい。そのためにも、中心メンバーには卒業後も活動に何らかの形で活動に関わり続けてもらうことや、メンバー同士で今後の活動内容についてよく話し合うこと、そして、筆者自身のコーディネートをさらに向上させることが重要であると考えられる。

参考文献

- 1) 総務省統計局「平成 25 年住宅・土地統計調査」, 2013
- 2) 谷直樹・竹原義二・藤田忍・小池志保子:大阪長屋の再生 ストック活用力育成プログラム, 建築雑誌, Vol.125 No.1607, p.72, 2010.
- 3) 山口浩介・中川聡一郎・坂井猛・鶴崎直樹:学生と地域の連携による空き家活用に関する実証的研究 その1 糸島半島における学生居住と空き家の実態, 日本建築学会大会学術講演梗概集, pp.1171-1172, 2012.
- 4) 高増佳子・遠藤貴子・来間直樹:学生がつくり住まう町家, 日本建築学会大会建築デザイン発表梗概集, pp.8-9, 2014.
- 5) 出町慎・江川直樹:空き家リノベーションプロジェクト「まちの居場所」「ゲストハウス」づくりー兵庫県丹波市青垣町佐治の地域再生を目指して, 建設の施工企画, 704, pp.83-86, 2008.
- 6) 山口県農村整備課「やまぐちの棚田 20 選」, <http://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cms/a17500/tanada20/top.html> (参照 2015-3-7)
- 7) 「中須北ホームページ」, <http://nakasu-kita.jp/> (参照 2015-2-15)
- 8) 総務省統計局「平成 22 年国勢調査」, <http://www.stat.go.jp/data/kokusei/2010/> (参照 2015-3-7)
- 9) 江口克成・田口陽子・三島伸雄:まちなか空き家改修プロジェクトにおける学習機会に関する研究, 日本建築学会技術報告集, 19(41), pp.351-356, 2013.